

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①子供たちが主体となり自ら課題を発見し解決できるような学習展開を進める。②めあてと学習方法を明確にし、振り返りの時間を確保し、1時間の学びと成長を実感できるようにしていく。③学力・学習状況調査から課題を発見し、解決していく授業を増やしていく。④互いの授業やベテラン教員の授業を参観する授業力向上ウィークを学期途中に設定する。	①②生活の中から課題を発見し解決する授業や1時間の学びと成長を実感できるような授業、めあて学習などを組織的に目指した。③年度当初には、昨年度の学状をもとに年間を通して高めたい力を確認し、具体的な取組を計画を立て、実践した。また、前期の終わりには前期の指導やその効果を振り返り、改善に努めた。	B	確かな学力	b5			確かな学力	c5		
豊かな心	①本校の合言葉を常に意識して、全教育活動において「豊かな心」の育成をしていく。あいさつ運動や学級指導、福祉教育や人権教育を基に、人権週間だけでなく、年間を通して心を通じ、他を大切にすることの大切さやその行為が「見える化」できるように、良い行為や感謝を伝え合う場を増やしたり認め合ったりする機会を増やしていく。	本校の合い言葉「心がやく」については、児童にも保護者にも浸透している。しかしながら、児童や保護者のアンケートからは、あいさつや他者への良い関わりがまだ不十分であると分かったので、朝会や人権週間、学級指導等を通して全校で良い行いや良い関わりについて共通理解を図った。	A	豊かな心	b6			豊かな心	c6		
健やかな体	①前期に長縄、後期に短縄を行うことで、年間を通して「なわとび」に親しみ、技能や体力の高まりを感じられるようにする。②ドッジボール集会やマラソン週間等も行い、楽しみながら体力向上に向かう取組を行う。③体育の授業では、体力テストで見い出された課題を克服するために、運動の楽しさを味わえるように学習形態や学習用具等の工夫をする。	①縄跳びは、一定期間、全校で記録を高めたり運動の楽しさを感じたりすることができた。②ドッジボール集会やマラソン週間では、楽しみながら運動に親しむ意欲付けができた。また、校外で行われる駅伝大会や綱引き大会などへの参加も呼びかけて朝練習などを行った。③教師間で情報交換や教材研究をし、授業改善に努めた。	B	健やかな体	b7			健やかな体	c7		
児童・生徒指導	①学校スタンダードを効果的に活用して、児童指導の充実を図る。②職員会議や打ち合わせ等を利用して、全職員での児童理解の徹底を図る。③学習スタンダードを作成して、児童が安心して学習できるようにする。④保護者や地域、関連機関との連携を強め、まち全体で子供たちを育てるような働きかけをする。	①学校スタンダードを基に児童指導は充実したが、いくつかの問題行動があった。今後も道德の授業を中心に全教育活動で規範意識や公共心などを育成していく。②職員会議等では、児童理解について十分な話し合いがなされていないという意見もあったので、企画会や学年研などで組織的に対応できるように努めた。	A	b1				c1			
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを中心に支援が必要な児童に対して、取り出しを行い、学習や生活上の課題を克服できるようにする。②全職員を対象児童の共通理解を図ったり研修をしたりする。③特別支援に対する教職員の知識を深める研修を進め、特別のニーズに対応する指導や支援を行う。	①特別支援教育非常勤講師が毎週月曜日に補助的な学習支援として取り出しを行ったことで、児童や保護者が安心感をもてるようにした。②特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に校内研修や企画会、職員会議などを通して、教職員の理解を深めることができた。	B	b2				c2			
人権教育	①人権週間を中心に年間を通して取組を充実させていく。②生活科や総合的な学習の時間において、体系的に様々な立場の方とのふれあい活動を設定して行くことで、福祉の意識や人権尊重の精神を育んでいく。③朝会や集会、学級活動や学校行事などにおいて、教師の説話や児童の作文等を紹介し、人権啓発のための人権ロードを創る。	①年間を通して、校長のリーダーシップのもと、心の教育に力を入れてきた。また、人権週間では心から発せられる言葉について取り上げ、人間関係を豊かにする方法について全校で考えたり実践したり実践報告をしたりすることができた。また、人権啓発のための取組も充実させることができた。	B	b3				c3			
幼保小中交流	①幼稚園や保育園、中学校の教職員との合同研修や参観、共同指導を行っていくことで、教育観を共有し教育技術を高めていく。②幼児・児童が、小学校や中学校の生活や学習を体験することで、不安や戸惑いをなくし、安心して自己実現できるような体制づくりをする。③他校の実践などから、より良い実践を学び、積極的に取り入れていく。	①幼保小合同研修会では、各園や小学校の実態、子どもの成長などをテーマに話し合い、共通認識や目標をもつことができ、スタートカリキュラムを作成していく指針となった。②1年生に対して園の先生に授業をしていただいたり、園児に対して生活科や給食交流などに招待したりして安心感をもたせることができた。	A	b4				c4			
人材育成・組織運営	①管理職・主幹教諭・学年主任のリーダーシップの下、今日の課題に関する対応力やチーム力を高め、教職員同士がお互いに指導助言をくり返しながらかしこめ力を高めていく。②教科・領域の指導方法の研修だけでなく安全や生活指導等、幅広い研修を行う。③計画的に校内重点研究・研修を実施し、外部講師を招聘して、授業力向上を図っていく。	①②③各種会議や校内研修、重点研究などを通して、組織的な人材育成に努めることができた。その結果、職員の和や意識、チーム力が高まった。反面、指導的な観点から人材育成をしていく必要性も感じられた。今後は、指導力や学校力を高めるために、ミドルリーダーの育成が求められる。	B	人材育成・組織運営	b12			人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き	教職員が良い行いや心持ちを具体的に示し指導していることで、子供たちの中でその姿を目指していこうとする気持ちが高まり、学校全体が安定してきた。また、100名近い合唱クラブは、音楽を愛好する気持ちの育成だけでなく、豊かな心の育成につながっている。さらに、ホームページの更新や教職員の地域行事への参加、子供たちの校外行事への参加は、社会に開かれた学校づくりにもつながっている。幼保小の交流については、他校の参考にもなる良い実践であるとの評価を受けた。授業力向上や人材育成に関しては、他校とも共通した課題であり、今後も研修を重ね情報交換をしつつ、さらなる高みを目指していく。			ブロック内相互評価後の気付き				ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価	今年度は、地域の方々ボランティアとして教育活動に関わっているが、参加している人も楽しんでいるし、子供たちのためにもなっているのなら、とても良い取組なので、今後も推進していくのが良い。他の地域とのスポーツを通じた交流では、多少遠慮がちな面があるので、積極的な思いや勝負へのこだわりをもってほしい。学校や習い事で忙しい子供が多いのが心配になるので、近隣公園でルールを守って積極的に遊んでほしい。また、管理責任などの問題もあるが、放課後の学校で、約束を作り、遊べるようにしてほしい。学校として、一生懸命に教育活動をしていることはよく伝わってくるので、自信をもって教育活動を進めてほしい。			学校関係者評価				学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り	児童や保護者からのアンケート、小中一貫ブロックの近隣校や学校関係者からは良い評価を得たので、自信をもって教育活動を推進していくのが良い。中期学校経営方針をもとに、具体的な取組をさらに具体化しその成果と課題をPDCAサイクルで推進していく。幼保小交流は、他校に誇れる実践となっている。また、子供たちの落ち着きから、心の教育については一層の実績を上げることができたと感じている。今後は、課題である教職員の教育力に向けて研修や情報交換を重ね、授業力や指導力を高めていく必要性を感じている。また、教職員や学校関係者が感じている体力向上について、具体的な目標や取組を定め、改善していく。			学校経営中期取組目標振り返り				学校経営中期取組目標振り返り			